



高梁 2025

地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション
～より良い連携を目指して～



令和6年3月31日



001 市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化

002 医療機能における役割分担を検討します。

市内医療機関の関係者等を交えた高梁市医療機関連携推進部会を平成30年度から4回開催しています。協議を進め、市内医療機関の特性・連携状況をまとめたポスターを作成し、市内の医療機関等に掲示し、普及啓発を行っています。



医療計画関係の協議の様子

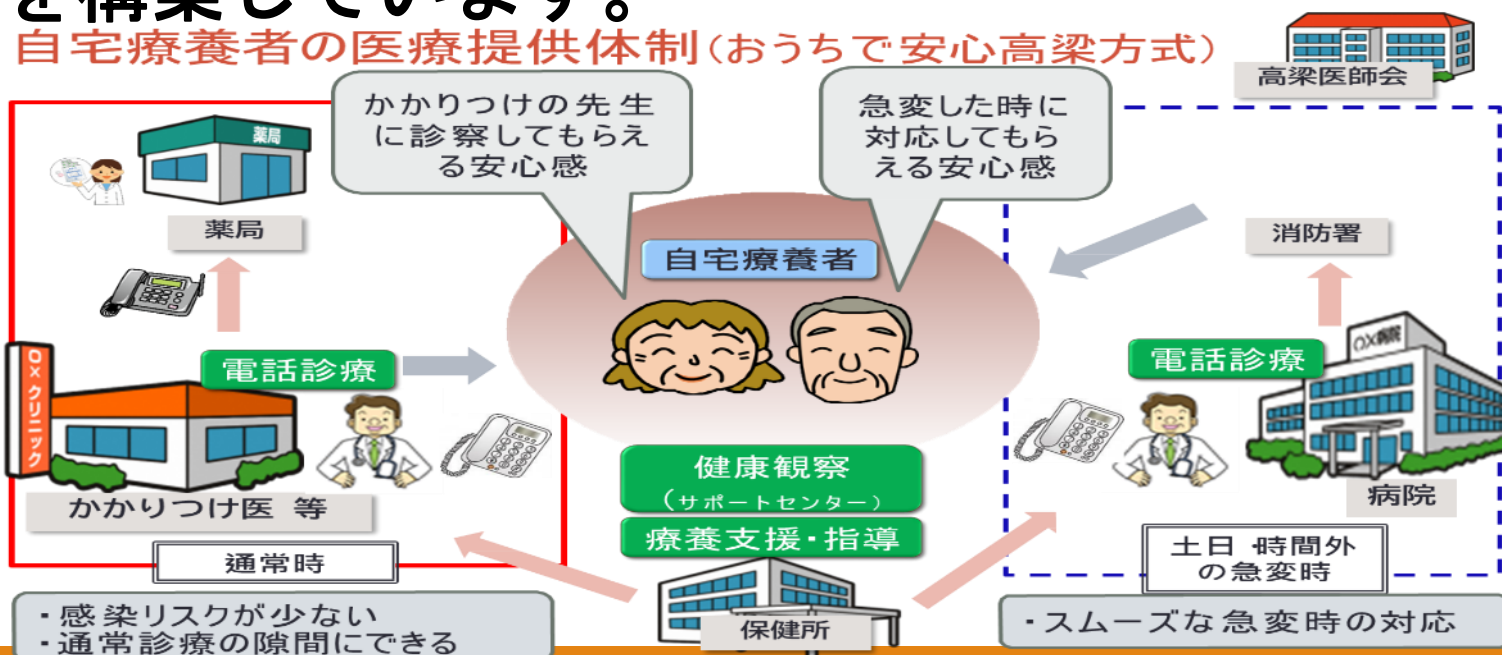


高梁市内の医療をつなぐネットワーク

001 市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化

002 医療機能における役割分担を検討します。

令和3年度には、高梁医師会、備北保健所、薬局、消防署が連携し、市内の新型コロナウイルス感染症の自宅療養者への電話診療を実施する医療提供体制「おうちで安心高梁方式」を構築しています。



目的: 高梁市内の新型コロナウイルス感染症患者が、自宅療養をする上で、在宅で安心して療養していただくため、日常の相談や病状悪化時にスムーズに対応する仕組み

NEW 市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化

003 医療機関と教育機関が連携して採用を強化していきます。

高梁医師会、市では、高梁高校で方谷学として医療をテーマに講義を実施し、若い世代に地域の医療に関心を持ってもらう取り組みを進めています。方谷学では、医療分野を探究テーマにする生徒は他分野と比べて多く、少しずつ医療に興味を持つ若い世代が増えてきています。

令和2年度には、看護師の確保を進めるため、高梁市看護師等確保検討部会を新たに設置し、奨学金制度の拡充、見直しを行い、令和3年度より開始しています。

令和4年度には、奨学金による新規養成の取り組みに加えて、市内医療機関が行う定着促進、復職支援、負担軽減等の取り組みへの支援を拡充し、令和5年度より開始しています。

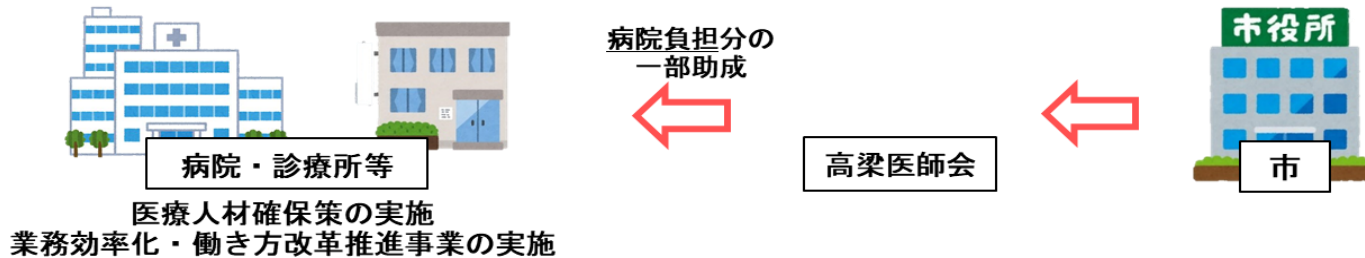
介護医療人材確保等対策支援事業費助成金（医療）

事業目的

市内医療機関が実施する看護職等の確保（新規養成、定着促進、復職支援）や業務効率化等に関する取組みについて支援を行うことにより、市内で働く看護職等の確保や働きやすい環境整備を行うことで、安定的な人材確保及び医療サービスの質の向上を図る。 ※介護事業所についても、同様の補助事業を実施予定

補助スキーム

既存の介護医療人材養成就学支援助成金と同じスキームで実施し、全体予算を確保する



①新規養成支援事業

R3開始

市内医療機関が実施する奨学金制度により医療人材の確保に係る事業費の一部を助成する。

上限額：600千円/人（支援額の1/2）

②定着促進支援事業

R5開始

市内医療機関が実施する奨学金返還支援制度により医療人材の定着促進に係る事業費の一部を助成する。

上限額：50千円/人（支援額の1/2）

③復職支援事業

R5開始

市内医療機関が実施する看護師等への復職支援助成金などにより医療人材の復職支援に資する取組みに係る事業費の一部を助成する。

上限額：50千円/人（支援額の1/2）

④業務効率化・働き方改革推進支援事業

R5開始

市内医療機関が実施する看護師等の日常業務効率化・働き方改革の推進に資する取組みに係る事業費の一部を助成する。

上限額：1,000千円/病院（支援額の2/3）
500千円/診療所（支援額の2/3）

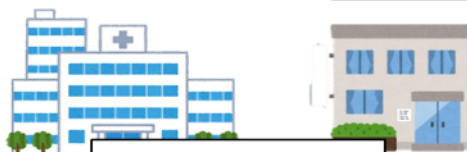
支援毎のスキーム

①新規養成支援事業



看護師等の資格取得
を目指す学生

奨学金の支給
一人当たり
年間最大120万円



病院・診療所等

R 3 開始

市の補助

①の事業毎について
医療機関負担分の1/2
一人当たり上限60万円
を市から医療機関へ補助

②定着促進支援事業



日本学生支援
機構等

奨学金の返還
年間20万円



市内医療機関に
勤務する看護師等

本人返還額の一部助成
二人当たり
年間最大10万円
(助成総額50万円)



病院・診療所等

R 5 開始

市の補助

②③の事業毎に
医療機関負担分の1/2
一人当たり上限5万円
を市から医療機関へ補助

③復職支援事業



再就職する
看護師等

現在離職中で
市内病院・診療所等へ
再就職



復職支援金の支給
一人当たり10万円



病院・診療所等

R 5 開始

市の補助

④の事業について、
医療機関負担分の2/3
上限100万円/病院
上限50万円/診療所
を市から医療機関へ補助

④業務効率化・働き方改革推進支援事業



医療従事者の
業務改善・負担軽減



日常の業務効率化・働き方改革の推進
に資する取り組み



病院・診療所等

R 5 開始

市の補助

④の事業について、
医療機関負担分の2/3
上限100万円/病院
上限50万円/診療所
を市から医療機関へ補助

004

市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化
医療機関間での医療従事者の異動、出向・派遣
を進めます。

平成30年度中に、診療所から病院へ
1名の放射線技師の異動が決まりました。

今後についてもより連携を深め、限ら
れた人材が地域でより活躍できる環境作
りに努めていきます。

NEW 005

市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化 医療提供拠点の配置適正化を進めます。

令和元年12月1日に、高梁市有漢診療所を有漢地域センター内へ移転し、利用者の利便性の向上に努めています。

令和5年4月1日から川上医療センターを成羽病院の附属施設として、また、西山診療所の診療を県外医師から成羽病院の医師による診療体制となり、成羽・備中・川上地域にある公立医科診療所が成羽病院による一体的な診療体制となっています。

令和6年4月1日から、近年の診療実績を踏まえて中井診療所を廃止。有漢診療所を週1回開設に見直しました。



高梁市有漢診療所



高梁市西山診療所



川上医療センター

006 市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化 市民ニーズに合った小児科の診療時間の調整 に努めます。

令和元年度に市内の病院へ小児医療（救急含む）の実態調査を実施しました。現在の小児救急の実績から小児科の診療時間は、これまでどおり対応させていただくこととなりました。今後、救急実績に応じて診療所の時間延長等も含め検討していきます。

また、お子様が夜間の急な発熱やけいれんなど具合が悪くなった際には、小児救急医療電話相談（#8000）をご利用ください。



#8000（小児救急電話相談）

NEW

市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化

011

患者数や地域完結率といった医療需要の実態を踏まえた上で、将来の病床数を検討します。

介護医療院への転換等で市内医療機関の病床数は、平成30年度から令和5年度にかけて191床減少しています。

これは、岡山県保健医療計画で掲げる地域医療構想の数字に近づくものとなっています。

NEW 地域医療提供体制の充実に向けた新たな政策的対応の検討

013 投資対効果が見込まれる医療機能や診療科を特定し、公的支援を検討します。

令和2年度には、感染症対策のため、対応する病床整備への補助制度を新設しました。（高梁中央病院が2床、たいようの丘HPが4床整備）

令和3年度には、「高梁市新型コロナウイルス感染症対応医療協力金」を市内医療機関の医療従事者等へ支給しました。また、岡山県建設業協会高梁支部からの寄付をもとに、高梁医師会に所属する医療機関、近隣行政機関、消防署へオートディスペンサーを配布しました。

令和6年度には、公定価格により運営されている医療機関、介護、福祉施設等に対して、「高梁市医療・福祉施設等物価高騰対策支援金」を支給する予定です。



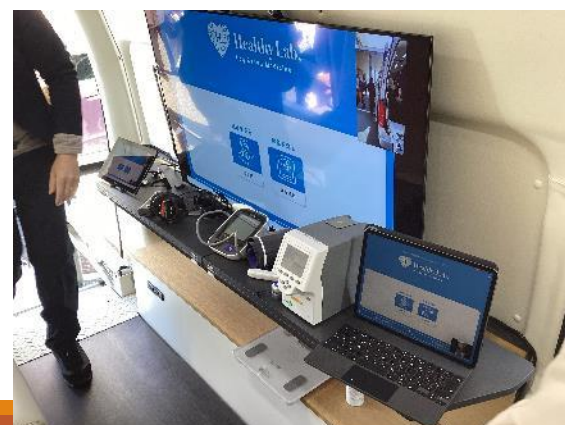
オートディスペンサー

NEW

- 014 地域医療提供体制の充実に向けた新たな政策的対応の検討
015 必要性や投資対効果の高いテーマについて、
016 技術動向や導入事例の調査を行います。

令和2年度に実施したオンライン診療を推進している兵庫県養父市への視察等を通じて、本市に見合ったオンライン診療のあり方について今後、検討を進めます。また、高梁中央病院では、内科と外科において令和2年度にオンライン診療を開始し、高梁医師会では、令和3年度にオンライン診療に対応した電話診療システムを、試験導入しています。

令和5年度には、岡山県医療推進課の実施する医療MaaS車両によるオンライン診療の体験会に参加しました。



NEW

014 地域医療提供体制の充実に向けた新たな政策的対応の検討
015 必要性や投資対効果の高いテーマについて、
016 技術動向や導入事例の調査を行います。

令和4年度には、今後医療DXの基盤となるオンライン資格確認システムによるマイナンバーカードの健康保険証利用の普及に向けて、広報紙で制度の普及啓発や市内病院でのマイナンバーカード発行などの出張申請窓口を開設しました。

令和6年4月1日時点で、市内すべての医療機関及び薬局でオンライン資格確認システムが導入されています。



マイナンバーの出張申請窓口

高梁2025 “地域医療はまちづくり”

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

マイナンバーカードを健康保険証として利用すると…

- ①就職・転職・引っ越しをしても、ずっと健康保険証として使うことができます
- ②窓口で限度額以上の医療費の一時的支払いが不要になります
- ③マイナポータルで自身の特定健診情報や薬剤情報を閲覧できます
- ④同意すれば、特定健診などのデータを医師などと共有し、より効果的な医療を受けることができます
- ⑤マイナポータルからe-taxに連動し、確定申告の医療費控除が簡単になります

マイナンバーカードを取得した後、マイナポータル(パソコンやスマートフォン)やセブン銀行ATMから申し込みができます。申込方法や利用可能な医療機関などについて詳しくは、厚生労働省のウェブサイトをご覧ください。マイナンバー総合フリーダイヤル(0120-95-0178)へお問い合わせください。

マイナンバーカードを健康保険証として利用できます

DX(デジタルトランスフォーメーション)を含む技術革新を通じたサービスの効率化や、質の向上を図るための取り組みが医療分野でも行われています。この取り組みの一つとして、マイナンバーカードの健康保険証利用が令和3年10月20日から始まっています。

市ウェブサイト「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション」にこれまでの進捗の内容などを掲載しています。

地域医療連携課 ☎ 21-0304

マイナ保険証利用の普及啓発

ぜひ、一度使ってみませんか？
マイナンバーカードの保険証利用

マイナンバーカードの保険証利用にはさまざまなメリットがあります！

Point!

薬剤情報等の提供に同意をすると、**データに基づく適切な医療が受けられる！**
さらに健康保険証で受診した場合と比べて、**初診時等の窓口負担が低くなる！**

Point!

限度額適用認定証等がなくても、**手続きなしで高額療養費の限度額を超える支払いが免除！**

詳しくは厚生労働省Webサイトでご確認ください。

詳しくはマイナンバーカード 保険証利用

厚生労働省 日本医師会

NEW 017

市内医療機関が一体となった市外医療機関との連携パス構築
高度急性期医療を担う市外の中核病院との連携
を進めます。

令和2年度に地域医療連携の確立、人材育成・交流、円滑な入退院支援等を目的に、県南の3つの中核病院と連携協定を締結しています。



R2. 7. 22 岡山大学病院



R2. 11. 12 倉敷中央病院



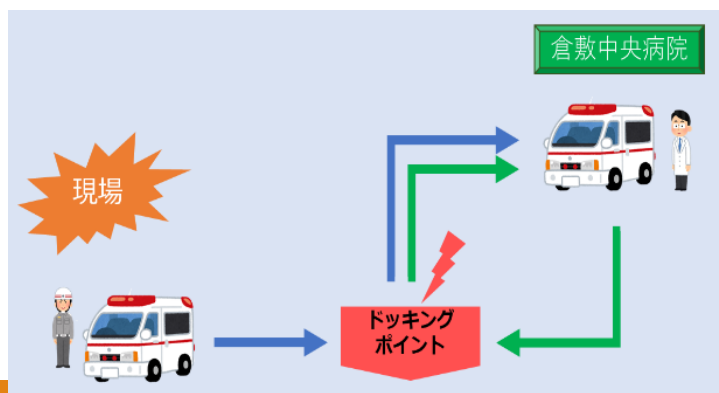
R3. 1. 20 川崎学園

NEW 017

市内医療機関が一体となった市外医療機関との連携パス構築
高度急性期医療を担う市外の中核病院との連携
を進めます。

令和3年度には倉敷中央病院と高梁消防署で、ドクターカーの運用を同年12月より開始しています。運用を開始後、累計11件の運用実績があります。

令和4年度から、広がる子どもの夢事業として川崎学園現代医学博物館の見学会を実施しています。令和5年度には市内の小中学生とその保護者8組17名が参加しました。



外傷者搬送のドクターカーのしくみ



川崎学園現代医学博物館見学



市内医療機関が一体となった市外医療機関との連携パス構築

018 市外の分娩施設との連携を進めます。

母子健康手帳交付時や市内クリニックでの妊婦健診受診時に、妊婦の方の希望する分娩施設を伺い、事前にその分娩施設と連絡を取るなど周産期医療の連携体制が整っています。

また、令和2年度に締結した市外中核病院との協定の連携事項の1つに周産期医療体制の確立に関する項目を設け、より一層の連携強化を図ることとしています。

市内医療機関が一体となった市外医療機関との連携パス構築

019 市内医療機関から市外医療機関への患者を紹介する仕組みを検討します。

平成30年度に市内医療機関での患者さんの送患状況の調査を実施しました。その結果、患者さんの入退院支援が各医療機関協力のもと、スムーズに行われていることがわかりました。

また、令和2年度に締結した市外中核病院との協定の連携事項の1つに円滑な入退院に関する項目を設け、市外の医療機関ともより一層の連携強化を図ることとしています。

市内医療機関が一体となった市外医療機関との連携パス構築

020 市外医療機関で入院した後、市内医療機関への転院や退院に向けた連携を図ります。

平成30年度に市内医療機関での患者さんの送患状況の調査を実施しました。その結果、患者さんの入退院支援が各医療機関協力のもと、スムーズに行われていることがわかりました。

また、令和2年度に締結した市外中核病院との協定の連携事項の1つに円滑な入退院に関する項目を設け、市外の医療機関ともより一層の連携強化を図ることとしています。

NEW

医療従事者の労働環境改善

022

医療従事者の働き方改革に向けて、業務の

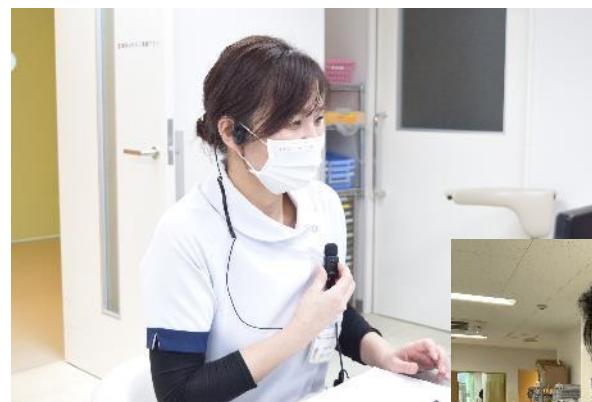
023

効率化を図ります。

令和元年度に市内の病院で働かれている看護師約300人を対象に労働環境改善に関するアンケート調査を実施しました。職場環境で重要と考えるものとして、納得できる収入、職場の人間関係、仕事の楽しさ・やりがい上位を占める結果となりました。

令和4年度には、看護師等の新規養成や定着促進、復職支援等、看護師等の確保に向けて総合的に市内医療機関が取り組むことができるよう、補助制度の拡充を検討し、既に市内医療機関で勤務する看護職等の負担軽減や業務効率化に向けて取り組む医療機関への補助メニューを創設した。

令和5年度には、インカム導入による情報共有や新人教育の業務効率化や与薬カートによる与薬管理業務の効率化に取り組んだ医療機関へ支援を実施しています。



インカム導入による
情報共有などの効率化



NEW

医療従事者の労働環境改善

024

医療従事者の24時間対応の緩和に向けた

055

施設間の連携を進めます。

高梁市在宅医療・介護連携推進事業の中で、訪問看護ステーションの情報交換会を年4回実施しています。

令和5年度には高梁医師会に主催で、「高梁地域の訪問看護ステーション検討会」が立ち上がり市内の訪問看護ステーションの効率的運営や連携強化について検討を開始しました。

026 職業と住まいの近接支援を検討します。

人材確保U・Iターン支援事業（引越し費用等の助成事業）について、平成30年度、令和元年度に2件ずつ、令和2年度は3件、看護師から申請があり助成を行いました。

また、市では、本市の定住施策を取りまとめ市内病院へ配布し、医療従事者の市内定着に向けた取組みを進めています。

027 医療従事者間のコミュニケーション改善
028 職種間での交流機会を増やします。
029

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会を2回程度、多職種連携研修会を2回程度開催し、所属や職種を超え意見交換をする機会を設けています。

また、平成28年度から平成30年度まで備北保健所が高梁医師会へ委託し、実施していた看護職のスキルアップ研修等の事業を、令和元年度は、市から高梁医師会への委託事業として、さらに、令和3年度からは、在宅医療と介護の連携推進と地域医療推進に向けた体制整備の確保を図るため、「高梁市在宅医療・介護連携推進事業」について、高梁医師会へ委託し事業を継続した。この事業により、研修のみならず、看護職の人材確保、人材育成等に努めています。



NEW

030

医療従事者間のコミュニケーション改善

職種間での交流機会に対する医師の参加を促進します。

在宅医療と介護の連携を図るため、多職種による研修会を平成25年度から21回開催しました。

これまでに累計25名の市内の医師が参加していますが、継続して参加する医師は、数名に固定化しています。

令和5年度が多職種連携研修会では、3名の医師が研修会に参加しました。今後も、より多くの医師等が参加するよう働きかけていきます。

医療従事者間のコミュニケーション改善

031 多職種連携の改善に向けて情報共有のルールを整備します。

多職種が連携し、スムーズな入退院支援を行うことを目的に高梁市内の入退院支援ルールを作成しています。

その中で、病院、在宅担当者が円滑に患者さんの情報を共有し、コミュニケーションが図れるよう高梁版情報共有書を作成し、有効に活用しています。

令和3年度には、岡山県栄養士会高梁支部で、医療・介護・福祉に携わる関係者で嚙下調整食の共通認識が持てるように、高梁地区食形態マップ「にゃんコード」を作成されています。

医療従事者の能力開発・育成機会の創出

032 小児領域を含めたプライマリ・ケア領域を強化します。

妊娠中から切れ目のない支援体制の充実に向けて市内の産科医、小児科医を含む関係者・専門職で高梁版ネウボラ連絡会(母子保健連絡会)を平成30年度に設立しました。

今後、出産・子育てサポート体制の整備に関する事項は、本連絡会で具体化を図っていきます。

ネウボラとは・・・フィンランド語で「アドバイスの場」を意味します。高梁版ネウボラでは、妊娠・出産・子育て期を切れ目なくサポートしていきます。

医療従事者の能力開発・育成機会の創出

034 多忙な医療従事者も研修に参加できる環境を構築していきます。

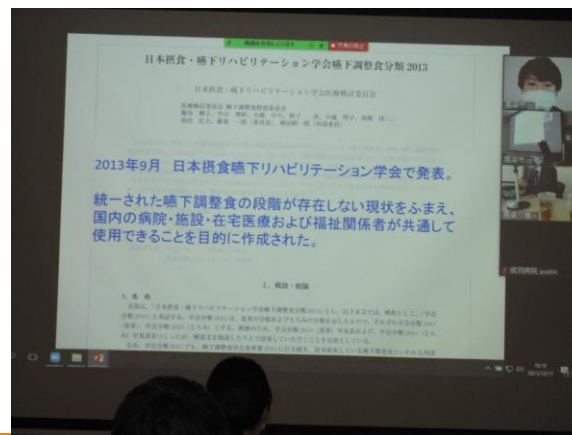
令和元年度に市内の病院で働かれている看護師約300人を対象に労働環境改善に関するアンケート調査を実施しました。

調査項目には、他の職種で対応可能な業務の項目もあり、調査結果をもとに医療従事者の働き方改革に向けた対応を含め検討を進めていきます。

また、令和2年度から研修参加の移動時間削減のため、研修会をハイブリット開催しています。



令和3. 10. 28 「皮膚・排泄ケア研修会」



令和3. 12. 18 「多職種連携研修会」

NEW 035 医療従事者の能力開発・育成機会の創出 組織横断的な教育・研修を検討します。

市内看護師を対象にリーダー育成研修や緩和ケア、皮膚・排泄ケア等の研修会を年数回行っています。

令和5年度には、研修会を開催し、医療、介護現場でのICTの利活用に関する研修会を12月15日に開催し、看護師等約他職種65名の参加がありました。

- 令和2年度：新型コロナウイルス対策等の研修会（55名）
- 令和3年度：摂食、嚥下、食形態に関する研修会（77名）
- 令和4年度：薬剤師の役割や薬の飲み方などについて研修会（68名）



令和4.12.2「多職種連携研修会」



令和3.12.18「多職種連携研修会」

NEW

036

医療従事者の能力開発・育成機会の創出

教育機関による卒業後を見据えた研修の取組みを進めます。

市内で看護師等の医療従事者を養成している吉備国際大学では、高梁医師会と連携し、「看護の魅力ガイダンス」を開催し、地域で働く医師や看護師等が授業を実施しています。

また、令和5年度からは吉備国際大学で「看護政策論」を開始し、高梁医師会と連携し高梁市での看護師確保に向けた取り組みについての講義を実施しています。



令和元. 7. 1 「看護の魅力ガイダンス」



令和5. 5. 17 「看護政策論」

医療従事者確保に向けた連携強化

037 地域合同での医療従事者確保に向け、本市の定住施策と連携した取組みを進めます。

人材確保U・Iターン支援事業（引越し費用等の助成事業）について、平成30年度、令和元年度に2件ずつ、令和2年度は3件、看護師から申請があり助成を行いました。

また、市では、本市の定住施策を取りまとめ市内病院へ配布し、医療従事者の市内定着に向けた取組みを進めています。

NEW

医療従事者確保に向けた連携強化

038

人材が必要な時期、場所、職種、人数等を明確にします。

医師確保・定着事業に向けたアンケートを実施し、あわせて各医療機関での不足する医療従事者の職種について、アンケートを実施し、医師、看護師のほか、病棟薬剤師が医療機関で不足していることが分かりました。

今後不足する医療従事者の確保に向け取り組んでいきます。

NEW

医療従事者確保に向けた連携強化

039

岡山大学医学部地域枠卒業医師の獲得を目指します。

平成29年度から高梁中央病院、平成30年度から成羽病院で岡山大学医学部地域枠の卒業医師が、継続して定期的に派遣され、地域医療を担っています。

令和4年度から、市の医学生奨学金奨学生が、岡山大学地域枠・自治医科大学生合同セミナーへ参加し、将来の地域勤務に向け同じ地域医療を志す仲間とのつながりを持てる機会を提供しています。

NEW

医療従事者確保に向けた連携強化

040

医師確保計画の策定について、県への働きかけを進めます。

令和元年度において、知事とのトップミーティングや高梁・新見地域医療構想調整会議（7月29日、11月27日開催）等の場で医師確保における要望・検討を進めています。

岡山県では、岡山県医師確保計画（令和2年度～令和5年度）を策定されました。本計画では、高梁・新見保健医療圏は、医師少数区域に設定され、医師多数区域からの医師派遣の継続、地域卒卒業医師等の優先配置を行う方針となっています。

本計画は令和5年度に改定され、高梁・新見保健医療圏は、引き続き医師少数区域として、医師多数区域からの医師派遣の継続、地域卒卒業医師等の優先配置を行う方針となっています。

医療従事者確保に向けた連携強化

041 市内大学等で地域医療の魅力を伝えるカリキュラム等により市内就職を促す取組みを行います。

吉備国際大学では、市内の病院や市と連携して学年に応じた地域実習カリキュラムを組んでいます。

その他、高梁医師会や市では、吉備国際大学で看護の魅力ガイダンスや小中学生を対象とした医療現場体験事業を実施しています。

高梁高校の方谷学でも医療に関する講義を実施し、市内の幅広い学生に地域医療に関して知ってもらう取組みを行っています。

NEW

医療従事者確保に向けた連携強化

042

市外の医療従事者養成学校の学生に向けても
市内医療機関等が一体となりPRをします。

平成29年度から市内4病院、高梁医師会、市が一体となり、
市内外の医療従事者養成学校を訪問し、看護師確保に向けた働き
かけを行っています。

吉備国際大学、県立真庭高等学校、新見公立大学、岡山県立大学、川崎医療福祉大学、
川崎医療短期大学、倉敷翠松高等学校、倉敷看護専門学校、玉野総合医療専門学校、
旭川荘厚生専門学校（10校）

また、大学、高梁医師会、市が一体となり近隣高等学校へも訪問
し、看護師確保に向けた働きかけを行っています。

高梁高等学校、高梁城南高等学校、日新高等学校、総社南高等学校、総社高等学校、
新見高等学校、矢掛高等学校、共生高等学校、興譲館高等学校、井原高等学校（10校）

NEW

医療従事者確保に向けた連携強化

043

市内で働くことの魅力をPRします。

047

高梁医師会が、平成30年度には市内4病院と連携し、看護師募集コマercialを、また、令和元年度には「高梁の医療」と題し地域医療の番組を制作しています。現在、高梁医師会のHPへ掲載されています。

また、平成30年度から市奨学金貸与者等を対象に市内4病院の見学会を開催しています。

令和5年度には、市HP内に看護職確保に向けた特設ページ作成し、市内医療機関で働く看護職のインタビューを掲載したり、地域イベントに参加し、看護師体験や地域医療のクイズなどのイベントブースを出展しました。



NEW

医療従事者確保に向けた連携強化

044
048

高梁で実現できるキャリアプランの明確にします。

高梁高校の1年次生を対象とし方谷学として、市内で働く医師、看護師から地域医療、地域で働くことの魅力について講義を実施しています。

令和5年度には、生徒の探求学習の中間発表、最終発表に参加しました。医療分野を探求テーマにする生徒は他分野と比べて多く、少しずつ医療に興味を持つ若い世代が増えてきています。



令和4.11.1 方谷学（高梁市の高齢者の現状と課題について考える）



チラシを作成した生徒

高梁高等学校の2年次生が作成した高梁の地域医療のチラシ

045 医療従事者確保に向けた連携強化

049 市内医療機関を知る機会を増やします。

順正高等看護福祉専門学校では、平成30年度から地域への愛着心を育てるため高梁学を行っていました。

また、令和元年度から成羽病院に加え、高梁中央病院、大杉病院でも実習が始まり、高梁中央病院では9名、大杉病院では6名が実習を受けています。今後も実習受入を通じて、市内医療機関を知ることによる、市内就職へのきっかけづくりに取り組んでいきます。

NEW

医療従事者確保に向けた連携強化

046
050

市の奨学金制度の普及・改善に努めます。

市内の大学等では、半数以上が市の看護師等養成奨学金制度を知らない状況です。平成30年度から市内で看護師等の医療従事者を養成している吉備国際大学から新たに合格通知を送る際に、市奨学金パンフレットを同封し普及に努めています。また、令和2年度には、高梁市看護師等確保検討部会を新たに設置し、市内医療機関、大学等が一体となって奨学金制度の拡充、見直しを行い、令和3年度より開始しています。制度の広報は、成人式や県内看護学校訪問、市内や近隣市にある高校訪問時に奨学金チラシの配布、次年度の事前要望調査などに取り組んでいます。

令和5年度には、看護師確保に向け市内医療機関や制度等をまとめたHPやパンフレットを作成しています。



市内医療機関紹介用パンフレット

高梁看護師等奨学金
奨学生募集

奨学金
10万円
毎月
480万円
合計
480万円

高梁で看護師、保健師を
目指す方を応援します！

高梁市介護医療連携課
TEL 0866-21-0304
FAX 0866-23-0655

(一般社団法人)高梁医師会
TEL 0866-22-3801
FAX 0866-22-7794

高梁看護師等奨学金チラシ



NEW

医療従事者確保に向けた連携強化

051

市内医療機関での研修を充実していきます。

高梁かんごねっとでは、市内医療機関の看護師を対象としてリーダー育成研修やフィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を10回以上開催しています。

また、令和4年度から市内就職した看護職の定着促進・離職防止のため、新たに新入看護職サポート研修会を開催しています。さらに、令和5年度には、新たに新人教育を行うプリセプターを対象とする研修会を開催しています。



令和5年度新入職員研修



令和5年度プリセプター研修

NEW

医療従事者確保に向けた連携強化

052

研修受け入れ先の職場環境を改善します。

令和4年度に看護職の業務の効率化、負担軽減のために取り組む市内医療機関に対して補助制度を創設しました。

令和5年度には、看護職等の負担軽減や業務効率化への補助事業として、インカム導入による情報共有や新人教育の業務効率化や与薬カートによる与薬管理業務の効率化に取り組んだ医療機関に対して支援を実施しています。

引き続き、市内医療機関で働く看護職等がより働きやすい環境となるように医療機関の業務改善・効率化の取り組みの支援を実施していきます。

NEW

053 医療従事者確保に向けた連携強化

054 離職者へのPRや復帰支援の取組の検討を

056 進めます。

令和2年度に、高梁かngoねっとでは、潜在看護師確保に向けポスターを作成し、看護師の確保に努めています。また、令和3年度には広報紙を通じて、県ナースセンターや高梁かngoねっとでの医療現場への復職支援の取組状況について周知しています。令和4年度には、潜在看護師を含めた高梁市に縁のある医療従事者をつながりを持てるようなネットワークの構築を検討し、令和5年度に「たかはし×医療“かけはし”ネットワーク」登録制度を開始し、高校での講義や市民公開講座で登録者の募集を開始しました。（現在10名）



NEW
060

子どもを産み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート体制の整備
医療機関間での周産期医療を担う人材の出向、派遣に努めます。

令和5年度に岡山県看護協会の人事交流事業として、倉敷中央病院（2か月）や倉敷成人病センター（2か月）から助産師の出向を受け入れ、赤ちゃん訪問や乳児健診事業などを行いました。

057 063 子どもを産み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート
061 064 体制の整備
062 067 出産・子育てサポートの充実に努めます。

市内での分娩施設の設置は、人材確保等の面から困難な状況ですが、妊産婦健診等の周産期医療は市内クリニックで提供しています。

分娩時の搬送では、県内で初めてママ・サポート119という消防と連携したシステムを整備しており、ほとんどの妊婦さんが登録されています。その他、妊婦相談、保健師の家庭訪問、スクラム作戦などきめ細かいサポートを実施しています。

ママ・サポート119



ママ・サポ119
事前登録



緊急時



かかりつけ医療機関へ
現在の状況を伝えながら搬送

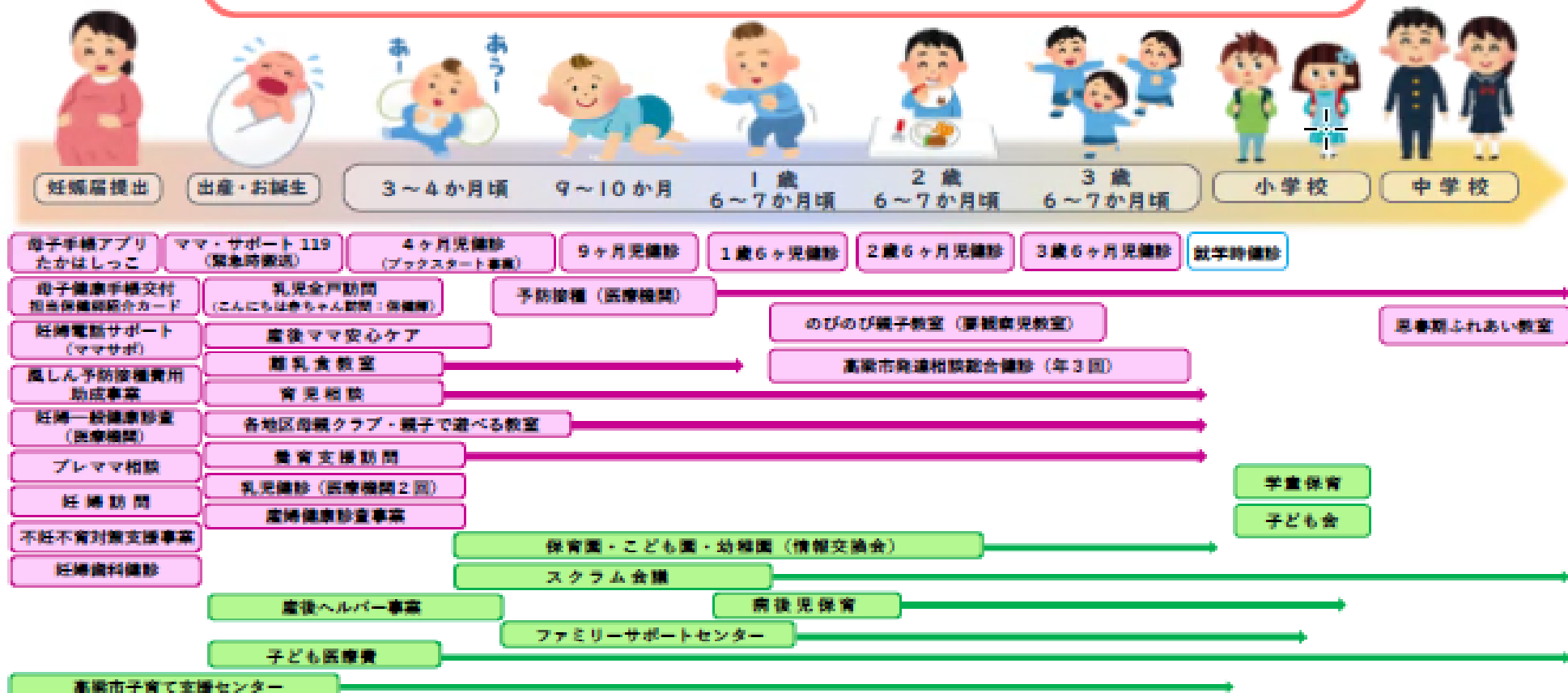


(R5.2.28時点で総届出件数1,078件で、総救急搬送件数68件)

高梁市子育て世代包括支援センター事業(たかはし版ネウボラ) 高梁市は妊娠・出産・子育て期を切れ目なくサポート

妊娠・出産・子育て期の様々な不安や疑問相談に対応する総合相談窓口です。利用する方のニーズに合わせて、その時点での最善の選択ができるよう専門職員(保健師等)がサポートさせていただきます。お気軽にご相談ください。 ※ネウボラとはフィンランド語で「アドバイスの場」を意味します。

地区担当保健師がお子さん一人ひとりの成長を支援しています



小児救急相談電話#8000または086-801-0018

健康づくり課 (電話: 0866-21-0228)

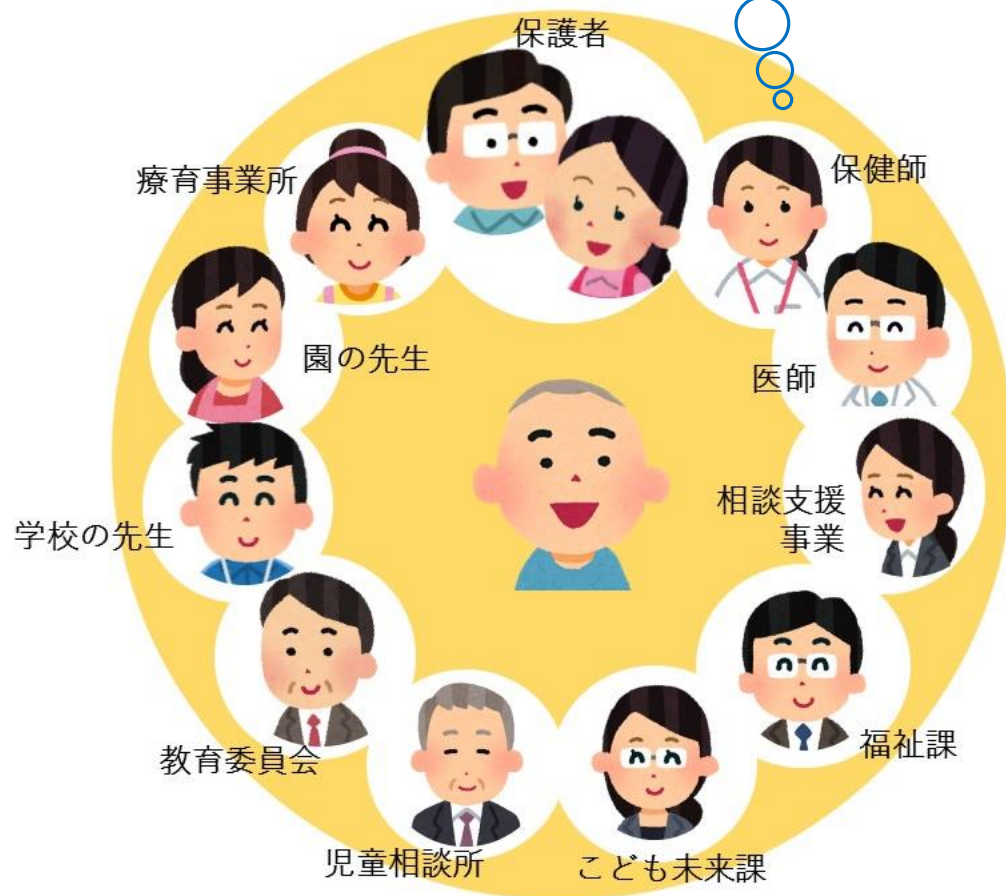
こども未来課 (電話: 0866-21-0288)

スクラム作戦とは？

関係者が手を取り合って、市内の子ども達の発達、成長を惜しみなく支援します！

支援を必要とする方の成長・生活を保護者、保健師、所属園・校の先生、福祉事業所などご本人を取り巻く支援者がスクラムを組んで連携支援することです。

ご本人の真の願いを支援者が適切に受け止め、それぞれの立場や役割を話し合っって横の糸と縦の糸をしっかりと紡いでいきます。



NEW 068

子どもを産み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート体制の整備

出産・子育てに関して、受けられるサポートや利用できるサービスをPRします。

分娩時の搬送を行うママ・サポート119をはじめ、18歳までの医療費無償化、各種母子保健施策・子育て支援サービスにより、母子保健活動を通して、妊産婦や子育て世代から市内のサービスについて不安が少ないとの声を多く聞いています。

妊産婦の安心、安全のための取組みを、市HPや広報紙、行政放送等を通じて、幅広い世代の市民の方にPRしていきます。

令和4年度は妊産婦の方や子育て中の方が活用できるサービスをまとめた「たかはし子育てガイドブック」をリニューアルしました。



NEW 068

子どもを産み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート体制の整備

出産・子育てに関して、受けられるサポートや利用できるサービスをPRします。

令和4年度には公益財団法人日本青年会議所が全国で展開している「ベビーファースト宣言」に「子育てするなら高梁市」を活動宣言として、令和4年9月26日に高梁青年会議所とともに、参画を表明しました。

令和5年度には、こども家庭庁のこどもたちのために何がもっともよいことかを常に考え、こどもたちが健やかで幸せに成長できるような社会を実現するという「こどもまんなか宣言」の趣旨に共感・賛同し、令和5年7月20日に、「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行いました。



- 069 地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化
070 医療が担うべき役割を関係者で共有するため、
086 研修等により在宅医療の周知啓発を行います。

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会では、多職種連携研修会を実施しています。

また、在宅医療に関係する専門職種が職種別に研修を企画・実施しています。



H30. 11. 9 「わが街健康プロジェクト。」を知ろう！



H31. 2. 15 「地域の認知症の現状を知る」

071

地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化
教育機関が医療機関と連携して行う取組みの
検討を進めます。

市内の看護師養成校である吉備国際大学等への市内からの入学者は非常に少ないのが現状です。今後は市内の高校と協議の場を設け、両校の教育環境等の魅力のPRに努めていきます。

また、吉備国際大学では、介護予防事業、市内の小中学生を対象とした医療現場の模擬体験など医療機関や市と連携した取組みを実施しています。

NEW 072

地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化
情報共有手段として「やまぼうし」の活用を進めます。

本市では、患者さんの同意のもと医療情報を医療機関や施設で共有するためのICTツールとして晴れやかネットの「やまぼうし」を活用し、操作説明会等を行いながら普及に取り組んでいました。

しかし、令和4年に晴れやかネット事務局の解散に伴い、その他代替となる手段として、令和5年度にLINEWORKSを活用したモデル事業を市内の一部の医療機関や介護施設、関係機関を対象として試行し、関係者が情報共有、連携しやすい新たな環境整備を進めています。

074 地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化
075 職種間での交流機会を増やします。
076

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会を2回程度、多職種連携研修会を2回程度開催し、所属や職種を超え意見交換をする機会を設けています。

また、平成28年度から平成30年度まで備北保健所が高梁医師会へ委託し、実施していた看護職のスキルアップ研修等の事業を、令和元年度は、市から高梁医師会への委託事業として、さらに、令和3年度からは、在宅医療と介護の連携推進と地域医療推進に向けた体制整備の確保を図るため、「高梁市在宅医療・介護連携推進事業」について、高梁医師会へ委託し事業を継続した。この事業により、研修のみならず、看護職の人材確保、人材育成等に努めています。



077

地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化
多職種連携の改善に向けて情報共有のルール
を整備します。

多職種が連携し、スムーズな入退院支援を行うことを目的に高梁市内の入退院支援ルールを作成しています。

その中で、病院、在宅担当者が円滑に患者さんの情報を共有し、コミュニケーションが図れるよう高梁版情報共有書を作成し、有効に活用しています。

令和3年度には、岡山県栄養士会高梁支部で、医療・介護・福祉に携わる関係者で嚥下調整食の共通認識が持てるように、高梁地区食形態マップ「にゃんコード」を作成されています。

地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化
078 通院手段の充実を図ります。

第2次高梁市地域公共交通網形成計画
(令和2年3月策定)の策定にあたって
は、通院に関して、市民の皆さんや市内
医療機関等から現状や課題についてヒア
リングをさせていただきました。

今後は、通院・買い物など日常生活圏
を基本に皆さんの生活がより充実するよ
う公共交通網を見直していきます。

地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化

079 バスの時刻と診療時間の調整を検討します。

市内の病院（地域連携室）では、通院・入退院患者の交通の相談を担っており、バスの時刻や乗合タクシーの予約等の支援を行っています。

NEW 082

地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化
医療が担う患者支援として救急サポート体制
の充実に向けた検討を進めます。

独居の高齢者を対象に平成22年度から救急
医療情報キットを配布しています。これまでに
延べ6,002名（R6.3月末）が登録され、
迅速な救命活動に役立っています。



救急医療情報キットとは？

かかりつけ医療機関や持病といった、救急時に必要と思われる情報を記入した「救急情報用紙」をキット（専用容器）に入れ、自宅の冷蔵庫に保管。万一の時には、かけつけた救急隊員が冷蔵庫からキットを取り出し、その情報を救急活動に活用するものです。



NEW 地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化 087 在宅医療を担う看護師の役割の見直しを進めます。

令和2年12月18日に多職種連携研修会をリモートで開催し、小規模多機能型居宅介護等の種類や特徴の理解を深めました。（参加者86名）

令和3年12月18日に多職種連携研修会（ハイブリット開催）で摂食・嚥下・食形態等について学びました。（参加者77名）

令和4年度は、12月2日に多職種連携研修会（ハイブリット開催）で薬剤師の役割や薬の飲み方などについて学びました。（参加者68名）（令和5年度）

令和5年度は、12月15日に多職種連携研修会（ハイブリット開催）で医療・介護現場でのICTの利活用について学びました。（参加者65名）



令和4年度多職種連携研修会（参加者68名）



令和3年度多職種連携研修会（参加者77名）

NEW 089

地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化
ACP(アドバンス・ケア・プランニング)への取組み、在宅看取りへの対応等を検討します。

令和元年度には、多職種連携研修会でACPの正しい理解と支援者としての関わり方を学びました。また、県医師会主催のACP研修会を講師に岡山大学松岡順治先生をお迎えし開催しました。

令和3年度には、研修会でのリーフレット配布、出前講座の実施、広報紙などで市民を対象とした普及啓発や施設看護師を対象とし講師に吉備国際大学門倉康恵先生をお迎えした講演を開催しました。



令和元. 9. 25多職種連携研修会
(参加者69名)



令和元. 10. 11岡山県医師会ACP研修会
(参加者57名)



令和3. 10. 19出前講座
(参加者6名)

NEW 089 地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)への取り組み、在宅看取りへの対応等を検討します。

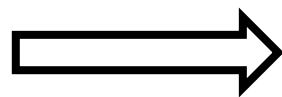
令和4年度から、高梁市医療・介護市民公開講座を開催し、市内事業所等で働いている介護医療職による演劇のテーマとして、会場参加者へ「自分らしく生きる」ための話し合いガイドをもとに、ACPの進め方を実践しました。



令和4.2.19 高梁市医療・介護市民公開講座
(参加者349名)



こちらから



NEW 094

091 095 住民目線に立った説明の強化

092 097 市内の地域医療の実情を市民の皆さんにPR

093 099 します。

高梁市医療計画を平成30年5月に策定しました。計画の内容を平成30年広報たかはし6月号で特集を組みPRするとともに、その際に開催した座談会を吉備ケーブルテレビで放送しました。また、令和4年度には広報たかはし10月号で、これまでの医療計画の取り組みの状況を「高梁の現在地」として、医療計画の特集を組み、地域医療の現状を周知しました。



NEW 094

091 095

住民目線に立った説明の強化

092 097

市内の地域医療の実情を市民の皆さんにPR

093 099

します。

在宅医療や市内で可能な医療を周知するため、医療・介護市民公開講座を開催しています。平成30年度から令和3年度までは市内の病院スタッフが順番に自院の特徴など各病院で対応可能な医療について説明を行いました。令和2、3年度は、コロナ禍により吉備ケーブルテレビでの放送でしたが、令和4年度からは再び会場に参集する形で開催し、令和5年度は岡山県歯科医師会高梁支部から口腔ケアの重要性や在宅訪問歯科診療などの取り組みを紹介しました。



NEW 094

091 095 住民目線に立った説明の強化

092 097 市内の地域医療の実情を市民の皆さんにPR

093 099 します。

令和6年度からの医師の働き方改革の施行に向けて、市HPで広報紙で上手な医療のかかり方についての普及啓発を行いました。

市HP内に看護職確保に向けた特設ページ作成し、市内医療機関で働く看護職のインタビューを実施し掲載しています。



市内看護職インタビュー



看護費確保HP

住民目線に立った説明の強化

096

人生の最終段階において、家族や医師等と話し合うことの重要性を普及・啓発します。

令和元年11月16日に看取りでの経験を語る会～人生の最終段階の過ごし方と在宅医療を考える～と題し、講演会を開催しました。（参加者200名）



令和3.10.19出前講座
(参加者6名)



令和元.11.16看取りでの経験を語る会
(参加者200名)

令和3年度には、研修会でのリーフレット配布、出前講座の実施、広報紙などで市民を対象とした普及啓発を実施しました。

住民目線に立った説明の強化

098

病院主治医と在宅医の二人主治医制の検討を進めます。

令和元年度に、（一社）高梁医師会において、訪問診療医師の会が立ち上がり、訪問診療を始め、二人主治医制等の話し合いが行われています。

NEW

住民目線に立った説明の強化

100

医療の情報について、市民の方にわかりやすく市のホームページ等を活用し広報していきます。

市ホームページで高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～として平成30年度から令和4年度までの成果を公表しています。

また、平成30年度から広報計画を策定し、市広報紙や行政放送において、定期的・継続的に市内の医療について情報発信しています。広報紙で医療計画特集、市内で不足する医療従事者の確保のためのホームページやパンフレットの作成を行っています。



寸劇による普及啓発

A page from a newspaper or brochure titled "高梁2025 地域医療はまちづくり" (Takayama 2025 Local Medical Care is Community Building). It features a section titled "救急外来を正しく利用しましょう" (Let's use the emergency department correctly) and another titled "救急医療を提供できる体制" (System for providing emergency medical care). The page includes text, a pyramid diagram, and a QR code. The pyramid diagram shows three levels: 一次救急 (Primary Emergency) at the base, 二次救急 (Secondary Emergency) in the middle, and 三次救急 (Tertiary Emergency) at the top. Text next to the pyramid explains the roles of each level in emergency care.

広報紙での情報発信



行政放送での広報